

支 部 報 告

但 馬 支 部

48年 行事計画

- 4月 例会
- 5月 例会
- 6月 野外観察会 但馬文教府周辺にて
講師 細見末男先生
- 7月 但馬の植生についての話し合い
- 8月 但馬の植生 編集委員会 文教府にて
8月1日～2日 臨海実習 佐津海岸(1泊2日)
8月18日～19日 植物採集会 扇の山(1泊2日)
- 9月 但馬の植生についての話し合い
- 10月 但馬の植生 編集委員会
- 11月 例会
- 12月 例会
- 1月 例会
- 2月 ゼミナール 但馬地方の動物の生態について
短大教授 高松先生
- 3月 但馬生物総会
(出石高校 大坪記)

神 戸 支 部

- 7月7日 神戸支部総会 於市立教育研究所
役員改選 支部長 藤本義昭氏
支部行事について協議
- 8月25日 野外観察会 摩耶山～布引
講師 広瀬弘幸先生
室井 緯先生
奥谷禎一先生
- 10月14日 野外観察会 紅葉谷～有馬
講師 広江美之助先生
室井 緯先生

マツノザイセンチュウについて

(奥谷 禎一 氏談)

従来から松林を枯死させる害虫として甲虫類が知られていたが、ごく近年(1968～1970)になって松を枯死させる直接の原因はマツノザイセンチュウと名づけられる線虫類の一種であり、この線虫を運搬するのがマツノマダラカミキリという甲虫類であることが判明した。一匹のマツノマダラカミキリは約8万匹の線虫を持っている。このカミキリが松の材を食べて成育し、この成虫が多くの松の幹に線虫を接種することがわかった。15年生の松に約3,000匹の線虫を接種すると枯死することが実験的に確かめられた。

マツノザイセンチュウは松の樹脂道に入り込んで生育繁殖する。テーダマツやラビアータマツなどはこの線虫を接種しても枯れない。その理由は樹脂が多くて線虫の繁殖に適していないからだと考えられている。枯死直後又は枯れかかっている松の材を削り取り、25℃の水に一晚浸しておくで線虫がたくさん出てくる。その大きさは体長0.7～1.0mmぐらいである。

松の材につくカミキリ類は約20種類ほど知られているが、この線虫が寄生するのはマツノマダラカミキリだけである。このカミキリは松の木の表層に近い部分に蛹室をつくるが、この蛹室の周りに線虫が集まり、カミキリの気管から体内に浸入する。春になると蛹から成虫になったカミキリは材に穴をあけて外に出る。一本の松の木から300～400匹のカミキリが出る。この一匹のカミキリが8万匹の線虫を持っているので、枯れたり枯れかかっている松の木は冬の間に伐採して4月までの間に焼却等の処分をしなければならない。

(これは8月25日の神戸支部野外観察会の際の
奥谷先生のお話を要約したものです。)

第28回 生物学会 総会 ご案内

昭和49年度、第28回総会は来る5月25日(土)に神戸支部で行なわれます。具体的な案内は本部から発送されますが、研究発表をご希望の方はそれまでに準備しておいてください。